



水産情報速報版

H23. 5. 2. No1286
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部漁業振興課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

東北地方太平洋地震により、被害を受けられました皆様に心からお見舞い申し上げます。1日も早く復旧されますように、お祈りしております。

1. 県漁協組合長会議開催（緊急会議）

—福島第一原発事故の対応—

4月12日県水産会館において、県内の漁協組合長や水産関係団体役員等 約50名の参加を得て、緊急の県漁協組合長会議を開催しました。

会議開会に先立ち震災犠牲者に対して追悼の意を表して黙とうを行った後、本会荒川会長の主催者挨拶に続き、「福島第一原子力発電所緊急事態に伴う対応について」を議題として、早速協議に入りました。

まず、中部電力株から原子力発電所の概要、福島原子力発電所事故の状況、浜岡原子力発電所の安全対策の現状と今後の対応について説明を受けた後、質疑に入り出席者からは砂丘の堤防機能を中心とした対策や放射能・汚染水に関することなど安全確保を強く望む意見等が多く出されました。続いて、県水産振興課影山課長から静岡県産水産物の放射能検査について県の基本的な考え方が示された後、本会からは放射線量調査対象魚種（案）を説明提示し、その対応について協議を行いました。その結果、風評被害への対策として検査実施を希望する意見もありましたが、次のとおり現時点では検査を行う予定のない旨を各県内水産関係者に対して県経済産業部水産局及び本会の連名により示すこととなったほか、今後検査が実施される場合には、近県の状況を参考として速やかに本県対象魚種を決定することとなりました。

1. 静岡県産水産物の放射能検査については、今後とも農業等の対応状況を参考としつつ、水産庁と密接に連携して対応する。2. 水産庁では、当初、福島県・茨城県・千葉県について検査を要請していた。3. その後、水産庁は、茨城県沖の「コウナゴ」の事例を受けて、上記県での検査を強化するとともに、検査対象を東京都・神奈川県にまで広げている。しかしながら、これまでのところ、東京都・神奈川県で基準値を超えた事例はなく、現時点において、静岡県については検査の要請はない。4. 以上から、静岡県産水産物について、現時点においては、検査を行う予定はない。今後、仮に静岡県に近い東京都・神奈川県から基準値を超えた事例が出た場合には、水産庁と密接に連携しながら、検査の実施を検討することとする。（平成23年4月15日付水振第58号・静岡連漁第11号通知）

なお、原発事故が未だ終息していないことから、各漁協組合長を参集する会議において引き続きこれらの対応を必要に応じて協議していくこととなりました。（会議名称等は未定）

2. 第76回大漁祈願祭が挙行される

大漁祈願と航海の安全を祈願

本会では、4月13日三島大社において水産関係団体の協賛のもと、第76回大漁祈願祭を

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

挙行しました。

本年は、東日本大震災の発生を考慮して行事を開催するかを本会理事会にて協議いたしましたが、長年にわたり執り行われている神事であることから、例年どおりの開催とし、当日は県をはじめ県内関係漁業者44名が参列し、本殿神前には各漁協等から奉納されたタイ・ハマチ・桜エビ・伊勢エビ・干物など海の幸が供えられ、禰宜や巫女による舞いが奉納された後、本会・県・地区運営委員会及び水産関係団体の代表者が玉串を奉奠し、本年度の大漁と航海の安全について祈願しました。

3. 漁業経営セーフティネットが初めて発動

—燃油補てん単価決まる—

漁業者の経営安定対策の柱の一つである燃油・配合飼料の価格の高騰時に備えた「セーフティネット構築事業」においては、原油価格等の高騰が続いているため、平成22年度第4四半期（1～3月）の平均原油価格が52,083.3円となり、補てん金の発動となるライン（直前2年間の平均原油価格×1.15＝47,719.9円）を上回った結果、補てん単価4,360円/KLが確定し、本県3漁協17契約者に補てん金の支払いが実施されることとなったほか、配合飼料においても平成22年度第2四半期（7～9月）について、輸入原料等の価格高騰から補てん単価4,030円/トが計算されており、本県1漁協11契約者の補てんが発動される見込みとなりました。なお、同事業への新規加入の契約締結期限は5月31日までに延長されており、残りわずかの期限となっておりますが、燃油・配合飼料価格高騰の影響を直接緩和する唯一の事業ですから、引き続き可能な限り多くの漁業者の皆さんに利用して頂けるようご周知願います。なお、加入申し込みの希望がある場合、お早目のご連絡をお願いいたします。

4. ライフガードレディースが呼びかけ

—初出漁を見守る—

桜えび春漁がスタートした大井川港等で4月6日、大井川港漁協女性部を中心にライフガードレディースを含む18名がLGLユニフォームとなっているジャンパーとキャップを着用して、「ライフジャケットは家族の愛情」と書かれたのぼり旗を持ち、ライフジャケット型のストラップを漁船乗組員へ配布しながらライフジャケット着用を呼びかけ、出漁の際は、大漁と家族の無事を願って見送りました。未だなお海難事故が少なからず発生し尊い命が失われており、今後もライフガードレディースによる救命胴衣着用運動の輪が県下に広がり、航海と操業の安全確保に寄与することが期待されます。

5. 震災支援の輪広がる

—県内漁業者・漁協にて—

伊豆漁協稲取支所は4月7日、東日本大震災で被災した同業者への支援を目的に「復興支援・稲取キンメのチャリティー即売会」を開きその売上金を、また、いとう漁協では4月23日「水産祭」を開催して自営定置網で水揚げした魚の売上金を、それぞれ被災地への義援金に充てることとなったほか、沼津我入道漁協からは生活支援物資が集まり被災地に輸送されるなど、県内漁業者・漁協の被災者支援の輪が広がっています。なお、多くのご協力を頂いておりますJFグループとしての募金運動については、5月10日（火）を期限として一旦締め切らせていただきます。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございます。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう